

調べ案内

作成者：戸田市立図書館／作成日：2018年7月1日



すだときみつ

隅田時光について調べるには

〒335-0021 戸田市大字新曾1707 TEL442-2800 HP <https://library.toda.saitama.jp/>

隅田（墨田）五郎時光（出家後は日徳）は、鎌倉時代後期に存在した日蓮宗の僧侶です。日蓮上人に帰依し、戸田市の妙顕寺及び和光市の妙典寺の開基*1となっています。伝承では、隅田氏は妙典寺のあった上新倉村を治める領主であったといわれています。

*1 開基とは、寺院創建の際、経済面を負担する世俗の信者を指します。（『広辞苑』第7版 p.476）

「隅田時光」について調べるためのキーワード

隅田（墨田）五郎時光、日徳、妙顕寺、^{にいぞ}新曾村、妙典寺、和光市、日蓮宗

オンライン目録(OPAC)、インターネット及び各種データベースを検索する際の参考にしてください。

テーマの棚に行って本を探す

●図書館の本は一冊ずつ分類記号が付いています。棚の本は分類記号の番号順に並んでいます。「隅田時光（日徳）」に関する資料には、以下の分類記号が付いています。本を探すときの目安にしてください。

「隅田時光（日徳）」に関する主な分類記号※これがすべてではありません。

188.9	日蓮宗	213.4	埼玉県の歴史	288	系譜
291.34	埼玉県の地誌				

目次

- p.2 [寺院関係本で隅田五郎時光の経歴を調べる。](#)
- p.3 [出家名から仏教辞典、人名辞典を調べる。](#)
- p.4 [系図又は出典にあたる。](#)

■隅田時光について調べるときは、日蓮宗関係の書籍、埼玉県の歴史及び系譜を探しましょう。次ページ以降のリストは、各項目とも本がある場所ごとに分類記号順に並んでいます。

～資料の紹介について～

- 今回紹介する資料は、当館が把握しているすべての資料ではありません。一部を除き、戸田市立図書館で所蔵している資料に限りしました。
- 戸田市立図書館内で複本資料がある場合は、中央図書館 2 階の郷土資料を優先して紹介しました。

妙顕寺及び妙典寺関連本で隅田五郎時光の経歴を調べる。

まずは、妙顕寺及び妙典寺の概要が分かる本を読み、隅田五郎時光の経歴及び出自に関する情報を集めましょう。

◆埼玉県関連の郷土資料

[埼玉県の歴史の本で調べる。]

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『和光市史』 民俗編	和光市	1983	T213.4	中央 2 階・郷土資料架
	<p>p.672-675「妙典寺」 妙典寺は、和光市にある日蓮宗池上本門寺の末寺です。墨田五郎時光が開基した寺として、日蓮上人と子安池にまつわる縁起が残されています。墨田五郎時光の出自及び伝承について書かれています。 検索のヒント: 信仰に関係する項目から「妙典寺」を探します。</p>			
『朝霞市史』 通史編	朝霞市	1989	T213.4	中央 2 階・郷土資料架
	<p>p.403-410「墨田氏と時光をめぐる伝承」 伝承によると、妙顕寺及び妙典寺の開基である墨田五郎時光は、新座郡の領主とされています。『朝霞市史』は、墨田五郎時光の存在性を示す確実な史料はないとしながらも、墨田氏の系図をもとに墨田氏及び角田氏について詳細な検証を加えています。 検索のヒント: 目次で鎌倉時代を探します。</p>			

◆戸田市関連の郷土資料

[寺院関係の本で調べる。]

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『妙顕寺』	さきたま出版会	1990	T188.9	中央2階・戸田市関連郷土資料
	<p>p.23-24「ふたつの寺と墨田氏」 妙典寺と妙顕寺の縁起が同じであること、妙顕寺が元々は妙典寺と同じく下新倉村にあったが至徳元年(1384)に新曾村に移転したこと及び開基である墨田氏の出自について書かれています。</p>			

[▲ページのトップに戻る。](#)

[戸田市の歴史の本で調べる。]

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『戸田市史』通史編 上	戸田市	1986	T213.4	中央2階・戸田市関連郷土資料
	<p>p.460「佐々目氏・戸田氏・墨田氏」 <small>しんべんむさしふどきこう</small> 『新編武蔵風土記稿』*1 及び妙頭寺の由緒から分かる墨田五郎時光及び妙頭寺創建の伝承について書かれています。時光の出自について異説があること、時光と戸田との係りを示す論拠がなく、実在性に乏しいとしています。 検索のヒント: 目次で鎌倉時代を探します。</p>			
『戸田市いまむかし』	戸田市	1989	T213.4	中央2階・戸田市関連郷土資料
	<p>『戸田市いまむかし』は、『戸田市史』の概要版です。 p.59「佐々目氏・戸田氏・墨田氏」 『新編武蔵風土記稿』及び妙頭寺の由緒から墨田五郎時光が妙頭寺を創建したと書かれています。時光の出自と実在性についても言及しています。 検索のヒント: 目次で鎌倉時代を探します。</p>			
『戸田むかし史ある記』 <small>ふみ</small>	戸田市教育委員会	1982	T213.4	中央2階・戸田市関連郷土資料
	<p>p.46「妙頭寺と隅田五郎時光」 <small>すだ</small> 隅田五郎時光が新曾村地域の地頭だったと書かれています。 検索のヒント: 妙頭寺は「新曾地区」にあります。</p>			

*1『新編武蔵風土記稿』は、文政11年(1829)に成立した江戸幕府編纂の武蔵国に関する地誌です。(『新版角川日本史辞典』p.562、『国書総目録』第4巻 p.771)

隅田五郎時光については、上記資料の他に、妙頭寺及び妙典寺の創建由来に関する本でも調べられます。調べ方案内「妙頭寺の基本情報を調べるには」を合わせて御利用ください。

出家名から仏教辞典、人名辞典を調べる。

隅田五郎時光は、出家後「日徳」を名乗っています。

◆仏教辞典、人名辞典

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『日蓮宗事典』	日蓮宗宗務院	1981	R188.9	中央2階・参考資料室
	<p>p.684「につとく 日徳」 日徳の俗名(墨田五郎時光)、妙頭寺創建の経緯、没年等が分かります。生年は不明です。</p>			
『人物レファレンス事典』 古代・中世・近世編せ〜 わ 新訂増補	日外アソシエーツ	1996	R281.0	中央2階・参考資料室
	<p>『人物レファレンス事典』は、人名の読み、生没年、業績等簡単な説明及びその人物がどの事典にどういう見出しで掲載されているかを明示したものです。 p.1876「日徳(1) につとく」 日徳の没年、活躍した時代、宗派及び『日本仏教人名辞典』(法蔵館、1992 ※当館未所蔵)に掲載されていることが分かります。</p>			

[▲ページのトップに戻る。](#)

系図又は出典にあたる。

隅田五郎時光のより詳しい経歴及びエピソードを知りたいときは、系図又は出典にあたります。

◆系図

※検索キーワード:隅田、墨田、角田、高橋

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『姓氏家系大辞典』第2巻	角川書店	1976	R288.1	中央2階・参考資料室
	<p>p.3111「墨田 スミダ-2 武蔵の墨田氏」</p> <p>『新編武蔵風土記稿』新座郡条を引用し、鎌倉時代、上新倉村が墨田氏の領地だったこと、下新倉村の妙典寺及び新曾村の妙顕寺の開基が墨田五郎時光で、文永頃(1264-1275)の領主だったこと、創建の由来等を紹介しています。また、足立郡条では、墨田五郎時光は当村(新曾村)の人で、「上総国藻原寺の縁起」に「墨田の郷士高橋五郎時光」と書かれていることが分かります。</p>			
	<p>p.3319「高橋 タカハシ-43 日奉姓西党」</p> <p>建長(1249-1256)の頃、墨田の郷士に高橋五郎時光がいて、日蓮に帰依したことが分かります。スミダ条を見るように指示があります。</p>			
	<p>p.3815「角田 ツノダ カダ スミタ-1 桓武平氏上総氏族」</p> <p>『朝霞市史』によると隅田時光の先祖は千葉常忠という説があり、墨田以外に「角田」と表記されることもあったことが分かります。この条目に隅田時光の記載がありませんが、角田は隅田及び門田に通じること、桓武平氏上総氏族(上総介常忠の子孫)が相模国愛甲郡角田邑からきていることが分かります。</p> <p>検索のヒント:「隅田」を開くと「スダ」及び「墨田」を見るよう書かれています。スダは色々な漢字が当てられたので、各条を参照してください。</p>			

◆戸田市関連の郷土資料

[戸田市の歴史の本で調べる。]

※検索キーワード:妙顕寺

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『戸田市史』民俗編	戸田市	1983	T213.4	中央2階・戸田市関連郷土資料
	<p>『宗門第一子安之霊場略縁記』は、新曾の妙顕寺の縁起です。</p> <p>p.1372-1373「宗門第一子安之霊場略縁記」</p> <p>隅田五郎時光は、武蔵国新倉の領主で、鎌倉幕府第7代将軍惟泰親王(1266~1289年)の家臣でした。文永8年(1271)時光の妻が難産となり、時光の夢のお告げに従い、佐渡に左遷される途中、新倉の領地で日蓮上人に会い、妙秘符を授かり無事に男子が生まれました。護符を授かる際に交わした契約のとおり、弘安2年(1279)に身延山で息子出家させました。時光も出家して日徳と名乗り、自分の城を法華経に献上し御堂を建て、日蓮小上人から子安のまんだらを授与され、長誓山妙顕寺という寺山号を頂戴したこと、日向上人を開山としたこと及び至徳元年(1384)新倉から新曾に移ったことが分かります。</p>			

[▲ページのトップに戻る。](#)

◆地誌

※検索キーワード: 妙顕寺

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
<small>しんべんむさしふどきこう</small> 『新編武蔵風土記稿』 第7巻 (大日本地誌大系 13)	雄山閣	1996	T291.3	中央2階・郷土資料架
	<p>p.231「妙顕寺」(「新曾村-寺院」内)</p> <p>妙顕寺の創建にまつわる伝承について書かれています。それによると、文永8年(1271)日蓮上人は、流刑地の佐渡に向う途中、時光の領地新座郡新座村辺りで時光に安産の護符を受け、それを持ち帰ると間もなく無事に男子が生まれました。それが契機となり、弘安3年(1280)、時光父子は日蓮上人に師事して身延山で出家して日徳、日堅と名乗り、日向上人を開山に迎え、妙顕寺を建立したことが分かります。日徳は妙顕寺2代目住職となり、正中2年(1325)12月に亡くなっています。</p> <p>検索のヒント: 妙顕寺は、足立郡新曾村にありました。</p>			
『江戸名所図会』中巻 [新版]	角川書店	1975	T291.3	中央2階・郷土資料架
	<p>p.853「長誓山妙顕寺」</p> <p>弘安3年(1280)武蔵国新倉の領主だった隅田五郎時光が妙顕寺を開基したことが分かります。寺記には、时光は惟康親王について新倉に住み、弘安2年甲州身延山で日蓮上人に謁見して剃髪し日徳と改名、正中2年(1325)12月12日に亡くなったとあります。欄外に时光についての補足説明があります。</p> <p>検索のヒント: 中巻「本文内容一覧」は掲載順になっているため、下巻「語句索引」p.912で「妙顕寺」を探しましょう。</p>			

◆未所蔵資料

[[国立国会図書館デジタルコレクション*](#)で調べる。]

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
<small>ほんげべつとうぶつそとうき</small> 『本化別頭仏祖統紀』上 (『日蓮宗全書』2所収)	須原屋書店	1910	188.9	国立国会図書館デジタルコレクション
	<p>『本化別頭仏祖統紀』(『本化別頭仏祖統紀』とも)は、享保16年(1731)、日潮<small>にっしょう</small>が記した伝記です。日潮は、1674~1748年に活躍した日蓮宗の僧侶です。六牙院と号し、仙台孝勝寺23世、身延山久遠寺36世等を務めました(『日蓮宗事典』p.679)。</p> <p>p.269「本化別頭仏祖統紀」上巻「当機直授列伝」内「武州新曾妙顕寺第二代日徳上人伝」</p> <p>日徳上人が妙顕寺の二代目住職であること、出家前の俗名、出自、妙顕寺創建の経緯等が書かれています。</p> <p>検索のヒント: 墨田五郎时光は、出家後「日徳」と名乗っています。</p>			

*国立国会図書館デジタルコレクション(<http://dl.ndl.go.jp/>)は、国立国会図書館がデジタル化した所蔵資料及びデジタル資料を検索・閲覧・視聴できるインターネットサービスです。『本化別頭仏祖統紀』は、「図書館送信資料」です。国立国会図書館又は国立国会図書館の承認を受けた公共図書館・大学図書館等を御利用ください。中央図書館2階カウンターで利用できます。利用の際は、申込手続が必要です。